

てとて

はじめまして！知多半島総合医療機構です

「知多半島総合医療センター」

「知多半島りんくう病院」

「訪問看護ステーション きずな」



【今月の表紙】

左：常滑市キャラクター トコタン 中央：知多半島総合医療機構 理事長 渡邊和彦 右：半田市観光マスコットキャラクター だし丸くん



私たちは、地域医療の中核を担い、 知多半島の人々の健康を支え続けます。

知多半島総合医療機構 理事長 あいさつ



知多半島総合医療機構
渡邊 和彦 理事長

1991年名古屋大学医学部卒業。同大学医学部脳神経外科研究員、岡崎市民病院脳神経外科医長などを経て、2000年に半田市立半田病院脳神経外科医長として赴任し、2021年からは同院長を務める。

2025年4月より知多半島総合医療機構理事長に就任。

知多半島総合医療機構は、『知多半島総合医療センター』（旧半田市立半田病院）と『知多半島りんくう病院』（旧常滑市民病院）が経営統合して生まれました。

機構の設置者は半田市、常滑市ですが、機構名や病院名に自治体名を入れなかったのは、両市をはじめ知多半島医療圏全体の人々の健康を支えていく使命を担うという、私をはじめとする職員のこだわりです。一方で、機構のシンボルマークは、半田市と常滑市の行政区画と互いが手を差し伸べて助け合う姿がイメージされ、両市民との繋がりやコミュニケーションを連想させるデザインとなっています。

両病院は、同じ法人に属する「一つの病院」という意識のもと、しっかりと機能や役割を分担し、強み・特徴を活かすことで、知多半島医療の中核を担い、急性期から回復期、在宅まで医療を安定的に提供してまいります。また、今後地域のニーズが変わっていても、当機構の基本理念「私たちは、地域医療の中核を担い、知多半島の人々の健康を支え続けます」に照らし、地域に必要であればやるという判断をしてまいります。私たちは「一つの病院」として、地域医療に貢献し続けていきたいと思っています。

2 病院による切れ目のない医療体制

知多半島総合医療センターの担う高度急性期

知多半島りんくう病院の担う回復期



救命救急

三次救急医療機関として、重症度・緊急度ともに高く、早急に高度な医療を必要とする患者さんを24時間365日体制で受け入れます。



急性期医療

平日日中の救急医療や各診療科における外来・入院診療を提供。地域における高次医療の入り口として、日常診療を担います。



高度急性期医療

脳卒中センターやNICU（新生児集中治療室）をはじめ、脳卒中や心臓病などの専門施設も備え、高度な医療を提供します。



回復期リハビリ

急性期を脱した後に、日常生活に必要な動作能力の回復を目指して専門的なリハビリテーションを行います。



がん治療

知多半島医療圏における「地域がん診療連携拠点病院」として、がん診療の連携・支援を推進する役割を担います。



地域包括ケアでの在宅復帰支援

地域の医療機関や訪問看護ステーションとも連携しながら、急性期が過ぎた入院患者のスムーズな在宅復帰をサポートします。

知多半島総合医療センター 院長 あいさつ



知多半島総合医療センター 岡田 禎人 院長

1990年名古屋大学医学部卒業。桐生厚生総合病院外科に勤めた後、同大学医学部第一外科、同大学大学院、常滑市民病院外科、安城更生病院外科などを経て、半田市立半田病院へ。2012年外科統括部長、2014年副医務局長を歴任し、2017年からは同院の副院長を務める。

2025年4月より現職。

救急医療や先進の治療を広く担う

知多半島医療圏の高度急性期病院

構想から約10年を経て、ようやく新病院が開院しました。新病院は移転し新しくなるというだけでなく、病院機能として大きな改革を行うこととなりました。両病院の特徴を生かした機能分担を行うことにより、限られた医療資源を効率的に活用し、地域の皆さんにより安心して医療を受けていただける体制になったと思います。

当院の担う役割は、救急医療、がん医療、周産期小児医療を含む急性期医療、災害医療であると考えています。これらの分野は従来から当院が力を入れてきた分野ですが、新病院になるにあたりCT、MRIの増設、抗がん剤治療等を行う通院治療室の拡充、新規放射線治療機器の導入など、機器・設備を整備し、より充実した医療を提供できるようになりました。また、災害医療については、病院建物基部に最新の免震装置を設置し、病院前に防災広場を設け、災害時診療拠点としての機能を充実させています。

機構全体で700床もの規模になるメリットも生かし、より良い治療を提供したいと思っています。

知多半島りんくう病院 院長 あいさつ



知多半島りんくう病院 野崎 裕広 院長

1988年名古屋大学医学部卒業。同大学大学院医学系研究科呼吸器内科研究生、ミシガン大学研究員、社会保険中京病院（現・中京病院）呼吸器内科部長、内科部長、総合診療科部長などを経て2018年常滑市民病院副院長、2023年には同院院長に就任。

2025年4月より現職。

急性期から在宅復帰支援まで

中核病院として地域医療の一翼を担う

常滑市民病院から名称変更を行い「知多半島りんくう病院」となりました。より良い医療で地域を支える二次救急医療機関として、平日日中の外来中心の急性期からリハビリ、在宅復帰支援まで、最後まで住み慣れた地域で過ごすための医療を担います。

経営統合により、夜間・休日の救急やがん治療の一部など総合医療センターに集約される機能もありますが、連携して診る体制ですので、地域の方々にはこれまでと同様に安心して受診していただきたいです。また、急性期を過ぎた方が在宅に戻るための医療については、当院が地域の中心になって行います。多職種のチームで院内外と連携し、専門的なりハビリにより在宅復帰を支援します。

これまで院内外と連携しやすく、地域のニーズに柔軟に対応できる中規模病院であることが当院の特徴でした。そうした強みはそのままに、地域の方々が求める医療を継続的に提供できるよう、機構全体で協力しながら取り組んでまいります。

知多半島総合医療センター



TEL	0569-89-0515
所在地	〒475-8599 愛知県半田市横山町192番地
駐車場	有(約450台)
休診日	土/日/祝、12/29~1/3 (救命救急センターを除く)

救急医療体制

地域における救急医療の要。三次救急医療機関として設備を拡充

『知多半島りんくう病院』との機能分担をする中で、一番大きな役割となるのが、三次救急医療機関として救急医療に注力すること。医療人口約60万人の知多半島において、「救急医療の最後の砦」を担い、地域の命を守ります。

がん治療

先進の放射線治療やロボット手術で低侵襲のがん治療を追求

がんの三大治療といわれる、手術・放射線治療・薬物療法(抗がん剤治療)を中心に、専門性の高い医療を提供します。低侵襲な治療を重視し、内視鏡下手術に注力。先進の放射線治療機器も導入しています。

高度医療

集中治療のための体制が充実。緊急を要する患者にも迅速に対応

救命救急センターで受け入れた救急患者さんを迅速に診断し、その後スムーズに早期治療へとつなげられるように院内連携や設備が充実。また、各診療科では専門医師による高度医療を提供しています。

災害医療

高台移転で有事への備えを一層強化。災害時に地域の命を守るための医療を

愛知県の「地域中核災害医療センター」である当院の使命は、有事の際にも病院機能を保ち、地域に医療を提供し続けること。高台移転や施設の拡充、専門人材の育成など、災害対策に重きを置いた病院づくりを進めています。



屋上には大型ヘリポートを設置し、ドクターヘリによる緊急搬送体制も充実しました。



薬物療法も含め、患者さんに安心して治療を行っていただくため、チームで取り組んでいます。



先進の機器や設備を拡充し、難病や重篤な疾患にも専門性の高い医療を提供します。



災害時に、被災者の救急治療を行うための専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム(DMAT)を保有しています。

訪問看護ステーション ぎずな **topic 1** 在宅療養の利用者さんときずなを紡ぎ、赤い糸でつながる看護を

訪問看護とは、主治医が「訪問看護サービスの利用が必要」と認めた方を対象としたサービスです。主治医の指示に合わせ、看護師や理学療法士といった専門家がご自宅に訪問し、在宅医療を続けるためのお世話や診療の補助を行います。利用対象となるのは病気やけがなどにより在宅療養をしている状態にあり、かつ、かかりつけの医師が訪問看護の必要を認めた方です。病院を退院された後も、栄養剤の点滴が必要など自宅での医療管理が必要なとき、もしくは自宅での療養生活におけるアドバイスが欲しいときにご利用いただけます。「看護にてきずなを紡ぐ赤い糸」を合言葉に、利用者さんとのきずなを築けるようなサービスに努めていますので、利用を希望される場合はまず担当のケアマネジャーにご相談ください。



知多半島りんくう病院

TEL	0569-35-3170
所在地	〒479-8510 常滑市飛香台3丁目3番地の3
駐車場	有（立体駐車場約150台）
休診日	土／日／祝、12/29～1/3 (救急外来は平日日中のみ受付)

外来機能

日中の救急外来をはじめ幅広い診療科で地域の日常診療を担う

地域を支える二次救急医療機関として、従来と変わらず地域の医院・クリニックからの紹介を受け入れていきます。また『知多半島総合医療センター』との連携を深めることで、より地域に信頼される医療の提供を実現していきます。

在宅復帰に向けた入院機能

多職種のチームで院内・院外と連携し、専門的リハビリにより在宅復帰を支援

入院前から、入院中・退院後の生活についての不安を軽減し、より安心して健やかに過ごしていただけるよう、充実したサポート体制があることが特徴です。

透析

多職種のチームによる透析医療。透析と同時に急性期疾患の治療も可能

血液浄化部門を設けるなど、透析医療に注力していることは当院の特徴の一つです。腎臓内科の医師や看護師、臨床工学技士、管理栄養士、リハビリスタッフといった多職種がチーム医療で患者さんのために取り組んでいます。

ウィメンズセンター

内視鏡手術と不妊治療で地域における先進医療を担う

外来診療はもちろんのこと、日帰り手術や高度生殖医療にも力を入れています。患者さんの症状に応じて負担を考えながら、ワンストップでより良い先進の治療を提供できるのが強みです。



外来機能



地域のクリニックなどとの連携のもと、各診療科での外来診療も継続して行い、日常的な急性期医療を提供します。

入院機能



入院中でも自然が感じられるよう、敷地内に散歩道や屋上庭園を設置しています。

透析



幅広い診療科・多職種が連携して急性期疾患の患者さんの透析治療も行うなど、総合病院ならではの透析医療を提供します。

ウィメンズセンター



病院本館と入り口を分けた別棟で女性医師を増員するなど、受診のしやすさにもこだわっています。

訪問看護ステーション きずな topic 2 いつまでも地域で暮らし続けるために、多角的な面からサポート

私たちのサービスは多岐にわたります。例えば、血圧・体温・脈拍などのチェック、病状の観察、精神面のケアといった「健康状態の管理」。また、「治療促進のための看護」として、医療機器や器具の管理、服薬指導、主治医の指示による処置や検査にも対応します。関節の硬化を防ぐ運動や歩行・排せつなどの動作訓練といった「自宅でのリハビリ」も行うほか、痛みの緩和、精神的な支援、看取りに関する相談など「終末期の看護」も重要な役割といえるでしょう。ほかにも住宅改修や福祉用具導入、介護の負担など日常生活での相談にも応じ、多角的な面から利用者さんご家族をサポートします。



知多半島総合医療センター



アクセス

車	知多半島道路半田中央ICから約5分、 半田ICから約8分
電車	JR武豊線「半田駅」から車で約20分 名鉄河和線「知多半田駅」から車で約20分
バス	名鉄河和線「知多半田駅」より 路線バスで約20分 ※運行ダイヤ等については半田市都市計画課HPをご確認ください。
タクシー	半田市にて自宅からの直行タクシー便を運行 ※片道1000円で半田市が運営するサービスです。 詳しくは半田市都市計画課HPをご確認ください。 ※ご利用は半田市民に限ります。

- 通院支援アプリ
- ・予約日時の確認
 - ・通知
 - ・アプリ決済
 - ・家族登録



知多半島りんくう病院



アクセス

車	知多横断道路（セントレアライン） 常滑ICから約2分
電車	名鉄常滑線「常滑駅」から 徒歩で約30分
バス	名鉄常滑線「常滑駅」停留所から 「常滑市役所・常滑市民病院」停留所まで約10分

呼び出し状況確認サービス

- ・呼び出し状況の確認
- ・メール通知



その他の アクセス方法

2つの病院を結ぶ病院間シャトルバスを運行

※常滑市が運用するサービスです。詳しくは常滑市HPをご確認ください。



公式SNS で情報発信中！

知多半島総合医療機構 Youtube



知多半島総合医療センター Instagram



知多半島りんくう病院 Instagram



訪問看護ステーションきずな Instagram



知多半島総合医療機構
看護局



知多半島総合医療センター
周産期センター



知多半島りんくう病院
婦人科ウィメンズセンター

